

<論文>

「探究心を引き出す総合的な学習の時間の指導法」

Teaching a comprehensive learning time to draw out the mind of inquiry

渋谷 修造

要旨

本論文は、総合的な学習の時間創設時の期待や担う役割を踏まえ、学生の経験や意識、さらに教育改革の現状から課題を見出し、それらの課題解決に資する講座の工夫について考察するものである。

総合的な学習の時間が創設されて20年以上が経過し、学習指導要領も3回目の改訂を経ている。創設当初は、学校や地域の特色、児童生徒の実態等を生かし、各学校で目標や内容を決める自由度に大きな期待が寄せられた。一方、教科書がなく、各教科のような専門の免許や大学での学びの経験がある教員がだれもいないため、大きな不安の中でのスタートであった。先行実施した研究校や学習指導要領に示される例示を手がかりに、どの学校でも概ね定着しているが、学校差や教員差が大きい現状である。

学生にとっては、自身のこれまでの学びの経験が全てであり、経験値に大きな影響を受けている。そこで、本講座を通して、総合的な学習の時間の意義やねらい、方法等を正しく理解するとともに、探求の楽しさや教科横断的な学習のよさについて実感をもって学べるようにしなければならない。特に、教育部ではないことから教職に関する基礎を学ぶ機会は多くないと考え、学習指導要領や教育改革の方向性にも触れていくことが必要である。総合的な学習の時間の指導法を通して、未来を拓く人材を育成する教育の素晴らしさを実感させ、大きな夢や目標をもって教育活動を創造できる教員養成に資することを目的とする。

キーワード

探究活動 見方・考え方 教科横断的な学習 ICTの活用
アクティブ・ラーニング 思考ツール SDGs

1 今なぜ、総合的な学習の時間か ―社会の要請から―

まず、知識を詰め込む教育から「生きる力」を育む教育への大きな転換点について、平成8年7月の中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（第一次答申）を概観しておく。

これからの社会は、変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代であること、そのような社会において、子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性であり、そして、また、たくましく生きていくための健康や体力である、と考えるのである。

社会の変化に対応する教育の在り方として、我々が次に指摘しておきたいことは、国際化や情報化などの社会の変化に対応し、これらの新たな社会的要請に対応する教育を行っていくことは重要なことではあるが、初等中等教育段階は、これらの変化に主体的に対応できる資質や能力の基礎を、子供たちの発達段階を十分に考慮に入れて育成する必要があるということである。

そのためには、教育内容を厳選し、[ゆとり]のある教育課程を編成するとともに、指導方法の改善に努め、学校教育の在り方を、これまでの知識を教え込むことに偏りがちであった教育から、子供たち一人一人の個性を尊重しつつ、上述の[生きる力]をはぐくむことを重視した教育へと、その基調を転換させていくことが必要である。

これを受け、平成10年7月の「教育課程審議会答申」において、総合的な学習の時間の創設が提言されている。

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保する
- ・社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を越えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保する

平成20年1月の中央教育審議会答申においては、総合的な学習の時間の必要性と重要性の再確認や位置付けの明確、横断的・総合的な学習や探究的な学習の明確化が提言されている。

現行の学習指導要領においても、「生きる力」を育成することは引き継がれており、総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしている。今後の社会においてますます重要な役割を果たすものであり、教育は社会の変化や要請に基づいて改革を重ねていることを、学生にしっかり認識させることが重要である。

2 総合的な学習の時間の現状と課題 —学生の経験や意識から—

これまで、各学校において試行錯誤を重ねてきた努力の結果、探究的な活動に熱心に取り組む児童生徒ほど学ぶ意欲や学力が向上するなど一定の成果を見せている。一方、学校差や教員差が大きい等の課題も見られる。本講座の受講生は毎年10名足らずの少数であり、信憑性や妥当性を保証するものではないが、学生の経験や意識に中にもその一端がうかがわれる。

「①総合的な学習の時間の学習経験」を問うと、職場体験、職業調べが一番に挙げられた。他にも、米や野菜作り等の農業体験、修学旅行の調べ学習、地域の環境調べ、アイマスク等福祉体験が多い。さらに、運動会や文化祭の準備、練習、卒業式の練習なども挙げられてるが、教育課程上の位置づけについては

明確ではないと思われる。

続いて、「②総合的な学習の時間で身に付けたこと、身に付けたいこと」についての問いに対しては、

- ・コミュニケーション能力
- ・人との関わり方
- ・感情を読み取る力
- ・集団行動をする力
- ・グループワークの力
- ・話し合いの基礎
- ・発表する力（聴く力）
- ・人間関係をよりよく形成する資質・能力
- ・仲間と最後までやり遂げる力
- ・他人の意見をまとめ、自分で考える力
- ・視点を変えて物事を見る力
- ・情報収集、活用力
- ・多面的な思考力
- ・社会に対する見方
- ・自分で考え行動する力
- ・意見を考察して考える力
- ・目標から逆算して、計画を立て取り組む力
- 等を挙げている。

学校教育や教員への批判的、否定的な見方を助長することが目的ではないので、身に付けたいことも加えたが、問われることで考えるという作用を働かせて、前向きな意識、意欲を引き出したことは興味深い。

3 学習指導要領改定の趣旨を生かした授業改善 —探究の楽しさを実感させる学び—

学生の学びの経験や意識を踏まえ、本講座が知識・理解を求める教員の一方的な説明に終始することなく、今求められている「主体的・対話的で、深い学び」を実現する授業改善に資するようにした。体験的で、操作的、対話的な活動により思考が深められるような構成にすることで、講座での学び方そのものが、社会科等の教科指導の充実にも活かせるように努めた。

担当した最初の年度には、大学と市が協定を結んだことを聞き、市への提言をするような目標を持たせ、実際に区役所に出向き、取材をする活動にも取り組んだ。しかし、体験的に学ぶことの楽しさや意義は感じられたものの、深め、提言するには時間が足りず、大学という大きな組織の窓口を超えて単独で活動することの無謀や限界を感じる結果となった。

次年度は、コロナ禍の影響が大きく、体験的な活動に制限が大きくなった。

これらの思考ツールを目的をもって用いることで、自身の考えを可視化する個別最適な学びとして、また、座標軸や学習シールを活用することで実際のインタビュー等を補い、仲間と協働的に学ぶ好機となる。

4 未来を担う教員養成 —総合的な学習の時間の指導方法を通して—

上記の思考ツール活用は、最も具体的に成果が見られ、自身の目指す社会科等でも授業づくりのイメージが浮かび、期待感を高めることに有効であった。総合的な学習の時間の指導法を考える中で、他の教科等においてもその目標や特質を踏まえた指導や教育を創造するための基礎的、汎用的な能力が養えるので、教職を志す学生にとって効果的である。

<授業づくりシート>

第2学年 テーマ「夢に向かって」				
	学習形態			学習内容や方法
	学年	学級	一人	
課題設定	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	【①考えるための技法 ②活動場所 ③体験 ④使用するもの】 オリエンテーション②体育館 ③動画視聴 ③講師 ④プロジェクター 課題発見 ①プレスト、ウェイビング、②教室 ④ワークシート、付箋 課題案設定(興味・関心別グループ) ①KJ法 ②教室 ④ワークシート、付箋 課題案設定(課題別グループ) ②校外各施設 ④取材メモ
	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	ネット、図書館、本、(課題別グループ) ②PC教室 ④ワークシート
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	インタビュー、調査、アンケート、電話や zoom等での取材 ②特別教室 ④メモ アンケート構想相談、アポイント練習 ②オープンルーム ④参考モデル
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
情報収集	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	情報の分類、整理 ①マトリックス(表)、ベン図 ②教室 ④ワークシート、付箋 データ集計、グラフ作成 ①エクセル活用 ②教室、PC教室 ④ワークシート
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
整理・分析	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
まとめ・表現	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	パワポ、壁新聞、パンフレット、ポスター、学校 HP ②PC教室、オープンルーム
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	発表会準備、練習、役割分担 ①選択した方法 ②教室 ④発表メモ
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	お世話になった事業所等への礼状作成、学んだことのまとめ・振り返り・評価

次に、総合的な学習の時間の全体計画や指導計画の作成について、学ばせるために、ワークシートを工夫し、シートに従って埋めながら実践的な理解を深めることを試みた。指導計画などは教育実習等の経験もない段階の学生にとっては、捉えにくい課題である。少しでも難しいことをやさしく、やさしいことを深く気づかせるようにするために、出身校のホームページを訪ねることを通して、興味をもって、教育目標や学校や地域の特色等を捉え、全体計画を作成する目的や方法等を理解させるようアプローチした。ホームページには、教育目標や教育方針、具体的な方策までが文字や写真などで実践的に紹介されているため、全体計画を考える上でも、学校の具体的な教育活動を考える上でも有効であった。さらに、指導計画の構想や授業づくりを具体的にイメージするために、

捉えにくい課題である。少しでも難しいことをやさしく、やさしいことを深く気づかせるようにするために、出身校のホームページを訪ねることを通して、興味をもって、教育目標や学校や地域の特色等を捉え、全体計画を作成する目的や方法等を理解させるようアプローチした。ホームページには、教育目標や教育方針、具体的な方策までが文字や写真などで実践的に紹介されているため、全体計画を考える上でも、学校の具体的な教育活動を考える上でも有効であった。さらに、指導計画の構想や授業づくりを具体的にイメージするために、

「NHK for School」の動画を用いた。断片的な活動記録だけでは、活動あって学びなしの状況に陥ってしまうことがあるが、教育的によく構成されているため、短時間でも見通しがもて、教職への意欲を喚起でき、有効であった。

さらに、**課題の設定** → **情報の収集** → **整理・分析** → **まとめ・表現**の過程を経験させるため、今日的な課題である「SDGs」をテーマとして生徒に課題を設定させる場面を想定して、プレゼンテーションを用いた模擬授業にチャレンジさせた。事後の学生の反応は、

- これくらいの時間でできるだろうと考え、計画を立てたが、実際にやってみると想像の2倍はかかった。
- インターネットでの情報が多いので、根拠があると言い切れない。情報の新古や正確性を見極めていきたい。
- 課題設定をするときに、自分の生活等に関連付けることによって、興味関心を持たせることができる。
- 一人で努力しても解決しないが、一人一人の意識の変化が改善への一歩ではないかと思った。

このように、やがて自身が指導する側に立つ可能性を意識して、体験し、実感できたので今後の指導に活かせるのではないかと期待を抱いた。

5 まとめ —探究心を引き出す総合的な学習の時間の指導方法—

児童生徒に探究心をもたせるためには、教師の探究心や本気が最も重要である。目標や指導方法等の知的理解をもとにしながら、体験を通して実感を伴う学びにしていくことが大学教育の中でも求められている。各教科等の知識や技能等を相互に関連付けることや各学校における目標・内容の設定、教師による適切な指導や教育資源の活用、教育課程をデザインすることなど浅く広くではあるが、限られた時間の中で考えさせることができたことが成果である。

〈参考文献〉

- 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編
- 中教審教育課程部会審議のまとめ
- シンキングツール ～考えることを教えたい～

(しぶや しゅうぞう 本学非常勤講師)